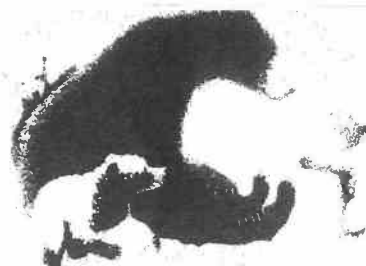


1月の

園便り



「ほくら ゆきんこ」

令和4年 新潟青陵幼稚園 園長 加藤 由美子

あけましておめでとうございます。今年もよろしくお願いいたします。
三学期は仕上げの時、子どもたちが充実した日々を過ごすことができますよう 保育者一同、心して保育に臨みたいと思います。

さて、今年の箱根駅伝は、青山学院の優勝でしたね。青山学院の監督さんのお考えが素晴らしいですね。選手の方たちは、レース中自分で走りながらどうレースを作っていくのかを自分で考えて決めていくという話をされていました。自分で考えてレースを作る、その判断がたとえ間違っていたとしても、後からそれを責めたりしない原監督なのだとのことでした。この話の時、アナウンサーと司会者が大きくうなずいていました、きっと、仕事上感じるところがあったのでしょう、分からなくもないです(笑)

「自分で考え自分で判断し行動する」という幼稚園の教育目標は、原監督の考え方と似ていると思っていますのです。子どもたちが大人になった時に、自分で考えて判断し行動する人間として成長して欲しいという願いを持って、その基礎を“今”幼稚園で育んでいます。

青陵は優しいし叱らないからダメなんだと言われることがあります(*止めなくてはいけないことはきちんと止めていますのでご安心ください。)優しいからダメなのではなく、優しいから、自分で考えて自分で遊びを作り、どんどん発見し発明し工夫していくことができます。子どもたちの主体性を大切にする青陵幼稚園ですから、自分で考えて行動している子どもたちを前にして、保育者は、はたと立ち止まって、これはどう判断していけばいいのか?何と言おうかと戸惑ってしまうことが多いのです。子どもの気持ちをつぶさずに、且つ、うまくその思いを実現させてあげたい、う〜〜む、ここは…と常に考えていかなければなりません。子どもたちが失敗しようと思えようと、子ども自身がさらにいい方法に気づくチャンスと受け止めて、一緒に考えていきます。だから、子どもたちは、失敗も間違いもいたずらも怖くはない、“次は”どうすればいいのかを考えればいいだけだから・・・

「だめでしょう、何をしているの!」と言われたら、子どもたちは「先生が言うまで待とう、下手に動いたら叱られる…」と指示待ち人間が育つでしょう。厳しさは人を委縮させます、大人の評価や叱責が気になります、厳しさはまた人を緊張させてしまいます、本番で力を発揮できないこともあるでしょう。原監督が走っている選手に「笑って」と言われていたのも緊張を解き楽しむことで選手の力を出しきってもらうためだったのではないかと思います。幼稚園の子どもたちが、保育者の顔色を気にすることなく遊びに没頭して、自分で、さらに楽しくもっと面白くなるように考えて実行していくことが、将来の大きな力(主体性)につながるのです。子どもたちがキラキラと楽しい日々を過ごせますように!

1月の予定

日	曜	給食	降園時間	行事
7	金	×	11:30	第3学期始業式です。
8	土			
9	日	/	/	
10	月	/	/	成人の日
11	火	×	11:30	お餅つきの会。お箸・お餅を入れる入れ物等お持ちください お父さんの会の皆様・役員の皆様がお手伝いいただきます。
12	水	○	2:30	給食が始まります。
13	木	○	2:30	
14	金	○	2:30	
15	土			
16	日	/	/	
17	月	○	2:30	
18	火	○	2:30	
19	水	×	11:30	誕生会。1月生まれさんの保護者の方、ご一緒にお祝いいたしましょう。
20	木	○	2:30	
21	金	○	2:30	
22	土			
23	日	/	/	
24	月	○	2:30	
25	火	○	2:30	
26	水	○	2:30	
27	木	○	2:30	父母の会主催「園長とのお話会」があります。
28	金	○	2:30	
29	土			
30	日	/	/	
31	月	○	2:30	